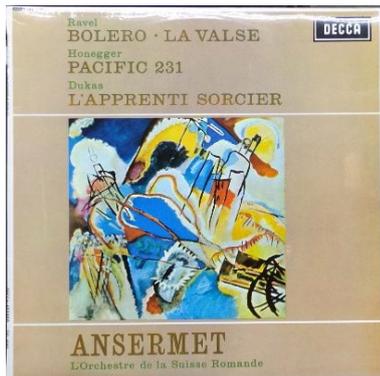


＜今週のお宝盤＞

受付期限：2026年4月29日

第9107番 アンセルメの近代フランス名曲集



税込33000円

英デッカ/SXL6065/1963年録音/ステレオ/G

ラヴェル：ボレロ、ラ・ヴァルス オネゲル：パシフィック231 デュカス：魔法使いの弟子
スイス・ロマン管/アンセルメ

フランスの近代音楽をまとめた好企画で、アンセルメのバレエ音楽に夢中になっていた愛好家はともかく、当時はフランス物ならフランスの演奏家と言う頑固者が多かったからこの演奏のセンスの良さには驚いたろう。アンセルメは譜読みの天才である。譜面を一目見て、特に縦の楽器の重なりから最良のバランスを読み取る。ボレロはそのテストのような音楽だ。次々とソロ楽器が受け継がれていって、音楽の単調さをじわじわと破っていく。ソロを生かすだけではない、他の楽器がどのようにその隙間を埋めているかとか、ソロの陰での和声の付け具合とか、言わば音楽の調合である。それは収められた他の作品についてもいえる、“パシフィック”は弦を中心として車輪の動きを鮮やかに模倣する。これには度肝を抜かれた覚えがある。ストコフスキーに聞き惚れていた耳にアンセルメの“弟子”を聴いた時は、美しさや流麗さを感じた。バレエの神様が演奏すると、この曲などは踊りを伴っているようにさえ思われてくる。要するに動きがあるのだ。ワクワクする動きで箒が駆け巡る。(山田)

第9108番 ポール・パレーのビゼー



税込27500円

米マーキュリー/SR90001/1956年録音/ステレオ/G

ビゼー カルメン組曲、アルルの女組曲 デトロイト響/パレー

ステージに立った長身のパレーは中々いない紳士然としている。勿論音楽も基本的には折り目正しいが、豪快な隠し玉を持っている。それが生かされる音楽としてビゼーは最適だ。音楽は生命力を持って弾み波打つ。フレーズの塊がうまくまとめられ、繋がりが極めて自然だ。強弱のコントロールの旨さにも心がときめく。例えばフルート・ソロひとつとっても、まるで名のある名人のように思われてくる。パレー&ドラティの時代デトロイト響はアメリカのオーケストラのビッグ・ファイヴに数えられた。二人の指揮者はレパトリーを上手に分け合い、それぞれに名演奏を残した。60代半ばのパレーが指揮人生を掛けた名演奏をこの楽団に託したのは当然のことであり、楽団もまたそれに応えた。名演奏の陰には必ずそのような事実がある。これをパレーと楽団員の蜜月と言って良いだろう。ファランドールを奏する管楽器の何と誇りに満ちていることだろう。フランス音楽を身を持って体験していない彼らは目の前に立つフランス音楽の神様の指示に何疑うことなく従い、このような、フランスのオーケストラにも手の届かぬような香り豊かな名演奏を残したのである。全合奏の打つリズムは遅しく、これはもはやアメリカの楽団の音ではなく、フランス情緒にぐるりと包まれた音楽である。加えれば、ビゼーの音楽はまだドイツ音楽の影響下にある。パレーはそれをも感じさせてくれる。(山田)